

## 授業科目 特別支援教育総論

特別支援教育講座 花熊 暁

受講者数 19名

### 1. 授業の目的

本授業は、大学院特別支援教育専攻の2つの専修に共通の必修科目で、大学院において特別支援教育の基礎研究や臨床研究を行うための基礎となる授業科目であるが、近年の特別支援教育の進展に伴い、ここ2～3年は特別支援教育専攻以外の大学院生の受講も多い。本授業は、日本LD学会・特別支援教育士資格認定協会が認定する特別支援教育士(S.E.N.S)の資格に対応しており、本授業の2単位を取得することで、S.E.N.S養成セミナーの「特別支援教育概論Ⅰ・Ⅱ」の4ポイントに代替することができる。

本授業の目的は、以下の3つである。

- (1)特別支援教育の歴史・制度について理解する。
- (2)幼稚園、小学校、中学校、高校の通常の学級における支援体制作りの実際について知る。
- (3)LD、ADHD、高機能自閉症等の知的な遅れない発達障害の状態像とこれら児童生徒への配慮・支援の基本について理解する

### 2. 受講者について

本授業の受講者は、特別支援教育コーディネーター専修6名(現職教員6)、特別支援学校教育専修7名(現職教員3、言語聴覚士1、非現職2、留学生1)、特別支援教育専攻以外の院生6名(現職教員1、それ以外5)の計19名である。

### 3. 授業評価アンケートとその結果

授業評価は、ア)授業内容の理解に関するもの：3項目、イ)授業の進め方に関するもの：2項目、ウ)授業への感想と改善意見：自由記述、の計6項目からなる授業評価アンケートを授業終了時に実施した。

(ア)授業内容の理解について

項目1「特別支援教育が求められる背景が理解できたか」については、“よく”と答えた者14名、“かなり”と答えた者5名であった。

項目2「学校・園における支援体制作り実際について理解できたか」については、“よく”13名、“かなり”5名、“どちらとも言えない”1名であった。

項目3「発達障害の状態像とその支援の基本について理解できたか」については、“よく”15名、“かなり”4名であった。

(イ)授業の進め方について

項目4「教員の説明のしかたやプレゼンテーションのしかたは適切か」については、15名が“非常に適切”、4名が“かなり適切”と回答した。また、項目5「授業で配布した資料の内容や量は適切だったか」については、“非常に”が16名、“かなり”が3名であった。

(ウ)授業への感想と改善意見：自由記述

授業内容や授業の進め方が適切だったと答える者が多く、特に改善意見は示されなかった。

### 5. 授業の評価と課題

本授業の受講者は、特別支援教育専攻の2つの専修と他専攻の3つにまたがっており、かつ、受講者の背景が、現職教員、特別支援教育関連職種携わる者、学部卒者、留学生と非常に多様であるため、各受講者のニーズにマッチした授業をどう行うかが、授業者として最も心を配らなければならない点である。授業アンケートの結果が示すように、本授業に対する受講者の評価は肯定的であり、授業目的は概ね達成されたと考えるが、授業目的(1)～(3)のうち、(1)と(2)については、さらに理解が十分に行えるように配慮・工夫する必要がある。このうち(2)については、後期に実施する「学校における支援体制」の授業を受講する者に対しては内容の一層の理解を深めることが可能であるが、後期授業を受講しない他専攻の院生に対しては、学校現場における特別支援教育の体制作りの実際と体制づくりにおける今後の課題について、より具体的なイメージが持てるようにする工夫を次年度に行う必要がある。